

気仙の2団体たたえる

大船渡佐久各賞贈呈 国際ソロブチミスト大船渡

国際ソロブチミスト大船渡(田村福子会長)は18日、陸前高田市高田町のキャピタルホテル1000で、国際ソロブチミスト大船渡賞と同佐久賞の贈呈式を開いた。両賞を受賞した気仙の2団体をたたえ、ますますの発展を祈念した。

国際ソロブチミストは、各分野で管理

職・専門職に就いている女性らでつくる世界的牽任団体。ソロブチミスト大船渡では、認証10周年の平成17年から「大船渡賞」を設け、地域密着型のボランティア活動や青少年育成活動などに取り組む個人、団体の顕彰を行っている。

東日本大震災以降は中断していたが、27年に再開。同年からは、大船渡市と銀河連邦友好都市関係にある長野県佐久市の国際ソロブチミスト佐久から支援を受け「佐久賞」も創設した。

本年度は、傾聴ボランティアを通じ地域住民の心のケアに貢献している気仙地域傾聴ボランティア「こもれば

の会」(佐藤智子代表)が大船渡賞、地域の子育て支援を目的としたサロン、相談室の開設などを行っている特定非営利活動法人こそだてシッパ(伊藤恰子代表)が佐久賞をそれぞれ受賞した。

贈呈式には、ソロブチミストの会員と受賞団体関係者ら約20人が出席。田村会長が、佐藤代表とこそだてシッパの大村恵世副理事(代表代理)にそれぞれ賞状と副賞を贈り、

佐藤代表(左から3人目)に大船渡賞、大村副理事(同5人目)に佐久賞の賞状が贈られた(電子新聞に別写真あり)

贈呈式 大船渡賞 佐久賞 国際ソロブチミスト



活動充実へ期待した。佐藤代表は「荣誉ある賞をいただき感謝。これからも地域の方々への心に寄り添い、痛みを和らげる活動をした」と、大村副理事は

「時間の経過とともに、地域の子育て事情は変わる。地域に根付いた支援活動をこれからも行っていきたい」と思いを新たにしたい様子だった。